# 島根大学
# 教職大学院

Shimane University
Graduate School of Education
Professional School for Teacher Education

スクールリーダーを育てる
山陰で唯一の教職大学院

あなたの
「なりたい」を
実現するために

## 学び続ける　教師をめざして

人とともに 地域とともに
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

島根大学大学院　教育学研究科　教育実践開発専攻

# 地域の教育力向上に向けての

島根大学大学院教育学研究科
教育実践開発専攻（教職大学院）専攻長
川路　澄人

## 未来（VUCA時代）の教育のために自分自身をアップグレード

社会の変化に伴い,教育の現場も常に変化しています。学校というシステムが堅牢な為,日々の変化は気づかないほど僅かであっても,学校や教育に求められる価値観はほんの数年で過去を忘れたかのように大きく変貌しています。約10年で学習指導要領が改訂され,教える内容,方法,更には授業時数までリニューアルされ,当然,教師に求められている資質・能力も変化せざるをえません。生成AIの急速な発展,GIGAスクール構想による一人一台端末の学習環境整備,デジタル教科書の普及などなど,その変化のスピードは今後ますます速くなっていきます。さらには「個別最適学習」,「自由進度学習」,「協働的な学び」,「総合的な探究活動」と次から次へと「新しい教育キーワード」が示され,教師にはそれらへの対応が求められています。過去の常識が通用しない,予測困難な時代=VUCA時代に生きる私たち,そしてその先を生きる子どもたち。教師という職業をアップグレードするためにあなた・私たちに何ができるでしょうか?

島根大学教職大学院は島根・鳥取両県教育委員会と協働した「山陰教師教育コンソーシアム」を基盤に,現職教員や学部新卒学生,多様なキャリアを持つ学生が一つのコースで学び合いながらお互いを高めあうカリキュラムを構築しています。私たちが目指す三つの教師像とそれに対応するカリキュラムは右の図の通りです。

これら三つの教師像に向けて,令和3（2021）年度には大学院生のニーズに応じたオーダーメードの学びができるよう授業科目の選択の幅を増やし,あなたの「なりたい=アップグレード」をより支援するシステムに変更しました。

子どもの未来のための教育に向けて,ここ島根大学教職大学院であなたの学びをはじめませんか。

## 「授業デザイン」「学校創造」「子ども支援」をより深く学べるカリキュラム

島根県教育委員会教育長
井手　久武

「誰もが,誰かの,たからもの。」―島根県には,どんなに時代が変わっても受け継いでいきたい「人のつながり,あたたかさ」があります。そのことは,教育も同じです。子どもたちの「人からの直接の学び」を大切にし,日本や世界を見渡す広い視野と島根への愛着と誇りをもち,未来を切り拓く「生きる力」を育むため,学校・家庭・地域が協働しています。

2040年の社会を見据え,次世代を担う人材を育成する上で,教育の果たす役割は非常に大きく,学校教育に寄せられる期待も年々高まっています。多様性,専門性に富んだ地域人材とつながり,学校組織マネジメントの視点から教職員を牽引する次世代リーダーの育成が急務であります。

教職大学院の「総合力の高いスクールリーダー」を養成する教職課程は,まさにこの求めに合致するものであり,ここで学んだ現職教員が,明日のしまねを創る「チーム学校」の中核として活躍してくれるものと,大いに期待しています。

鳥取県教育委員会教育長
足羽　英樹

鳥取県では「自立して心豊かに　幸せな未来を創造する　ふるさととっとりの人づくり」を基本理念として,「ふるさとキャリア教育」をすべての教育施策の基軸とし,目指す人材育成像を明確にした取組を進めています。

学校は児童生徒にとって,自らの人生を切り開くための学びの場であるとともに,仲間と切磋琢磨しながら,豊かな人間性を育む貴重な場です。また,保護者や地域の方々にとっても,地域の活力,活性化のための核となるかけがえのない場所です。その意味でも,多様な子どもたちの深い学びを確かなものにするために,安心・安全な環境を確保するとともに,学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め,生涯を通じて学び続け,様々な教育ニーズや課題に対して,迅速かつ適切に対応することができるスクールリーダーの存在が必要不可欠だと考えます。

また,教育には時代が変わっても変わらずに大切にしたい「不易」の部分と,時代の変化に合わせて柔軟に変えていくべき「流行」の部分があります。ふるさととの繋がりを大切にする心や人としての生き方,在り方を子どもたちに育み次の世代へつなげていくことは決して変わることのない「不易」であり,生成AIの急速な普及など時代とともに変えていくべき「流行」に柔軟に対応することも求められます。

島根大学教職大学院で学んだ熱意のある教員が,今後,変わらない教育の本質を大切にしながら,あらゆる変化に臨機応変に対応できるスクールリーダーとして,本県の教育の発展・充実に貢献することを期待しています。

# 「地域拠点校」と「サテライト」

## 「地域拠点校」及び「附属学園サテライト」の意義とはたらき

□山陰の都市部や島しょ部・中山間地域に『地域拠点校』を設け，教職大学院教員（実務家教員・研究者教員）が当該校の学校教育研究に入り込みながら地域課題と密着した研修を実施することによって，理論と実践の往還を通した現職教員の力量形成を図ります。さらに，継続的な現職教員指導を通して，拠点校を核とする地域の教育力向上を目指します。

□現職教員学生は，大学院1年目は大学での講義・演習を中心とする学修を行います。2年目は地域拠点校に勤務しながら，勤務校での実習を主として行います。

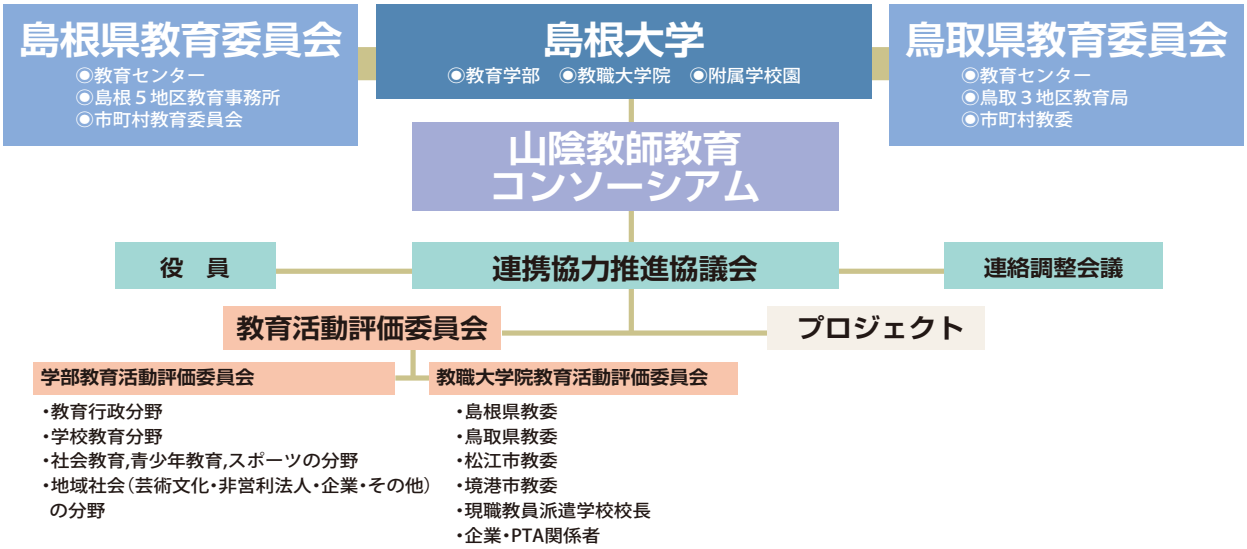
□学部新卒学生は,原則として,大学院2年間を通じて公立学校において継続的にインターン実習を行います。

□島根大学教育学部附属義務教育学校に併設された教育学部附属山陰教員研修センター（SaTeLa）に,教職大学院附属学園サテライトが設置され,附属学園で行われる教職大学院の授業や実習・イベントなどに活用しています。

□**地域拠点校にとって：**　現職教員学生の研究テーマの追究を通して教職大学院教員が継続的に学校と関わり，大学における研究上の知と学校が蓄積している経験知の融合を図りながら学校現場が今，抱える課題の解決を進めていきます。

□**地域にとって：**　地域の教育課題をふまえた地域拠点校の研究を現職教員学生や拠点校教員と教職大学院教員が協働しながら課題解決し，その成果を積極的に地域に還元します。また，地域拠点校を核としながら継続的に教職大学院が地域に関わり，教育課題の解決をサポートします。

□**山陰教員研修センター（SaTeLa）とは：**　「子どもと共に学ぶ教員研修センター」として,島根県教育委員会および鳥取県教育委員会と連携した「しまだい学校教員研修」や「現職教員研修」,附属学校園が主催する研修等が行われています。センター内の「教職大学院附属学園サテライト」やアクティブ・ラーニング型教室を実現した「未来創造ラボ」では,教員研修のインターネット配信設備も完備。さらに,附属学園の学習生活支援研究センターや島根大学こころとそだちの相談センターの分室も設置され,まさに実践的な教育研究の拠点となっています。




### 島根大学 大学院　教育学研究科（教職大学院）

| | | |
|---|---|---|
| 専任教員（研究者教員） | | |
| 大谷みどり | 特任教授 | 英語学習支援，異文化コミュニケーション |
| 大野　公寛 | 講　師 | 教育経営，社会教育，生涯教育，学校と地域の連携・協働 |
| 加藤　寿朗 | 教　授 | 社会科教育，生活科教育，総合的な学習 |
| 川路　澄人 | 教　授 | 造形教育（幼児の造形・図画工作・美術科），生活科教育，総合的な学習，教師教育 |
| 川俣　理恵 | 准教授 | 生徒指導・教育相談，教育心理学，学級経営，スクールカウンセリング |
| 久保田裕斗 | 講　師 | 教育社会学，インクルーシブ教育，特別支援教育 |
| 松尾　奈美 | 講　師 | 教育方法学，授業研究，子ども理解，インクルーシブ教育，探究的な学び |
| 御園　真史 | 教　授 | 数学教育学，教育工学 |
| | | 専任教員（実務家教員） |
| 下村　岳人 | 准教授 | 算数・数学教育学，数理認識論 |
| 福島美菜子 | 特任教授 | 特別支援教育 |
| 藤原　建 | 特任教授 | 生徒指導，教育相談，学校・学級経営 |
| 松尾　直樹 | 教　授 | 学校・学級経営，生徒指導，教科教育 |
| 宮崎　紀雅 | 准教授 | 特別支援教育，学級経営，教科教育 |
| 安野　洋 | 准教授 | 学級経営，教科教育，青少年育成 |
| 吉崎　朗 | 特任教授 | 学校・学級経営，生徒指導，教科教育 |
| 特別専任教員 | | |
| 香川奈緒美 | 准教授 | 教育社会学，コミュニケーション論 |
| 塩津　英樹 | 准教授 | 教育哲学，教育思想，道徳教育 |
| 須崎　康臣 | 講　師 | 体育心理学 |
| 冨安　慎吾 | 准教授 | 国語科教育 |
| 猫田　英伸 | 教　授 | 英語教育学 |
| 原　丈貴 | 教　授 | 運動生理学 |
| 藤井　浩基 | 教　授 | 音楽科教育 |
| 堀田　晃毅 | 助　教 | 理科教育学 |

## 山陰の地域ニーズや現代的教育課題に対応した授業内容と指導方法

■地域の学校が今，取り組まなければならない課題に対して，教育実践を多角的に分析し，具体的な方策を構築し，組織力開発の中核となるスクールリーダーを養成します。また，ICTを活用した遠隔研修や自己省察力を高めるための『教師力ナビゲーションシステム』を活用した新しい教育方法を取り入れます。

**■共通科目**

地域の実態や新しい教育課題を踏まえた科目『教科指導力向上のための授業研究』『多様化時代の学級経営』『子ども理解・支援の理論と方法』等を開講します。また，地域の実態や現代的な教育課題に対応した新しい教育理論や課題解決に向けての実践的アプローチの方法を学びます。（必修：20単位）

**■選択科目**

個々の学修ニーズに応じて三つの科目群（授業デザイン，学校創造，子ども支援）から選択して学修します。

**■課題研究科目**

学校現場が今，抱える教育課題の解決を目指した研究テーマを設定し，講義で学んだ教育理論と実習による実践を関連付けながら研究を進め，その成果を報告書にまとめます。

**■実習科目**

学部新卒学生は公立学校や附属学校において教育実践研究と長期インターンシップによる課題発見とその追究を，現職教員学生は勤務校を中心に地域・学校の教育課題の解決を目指した教育実践研究を2年間で行います。

## 教職大学院で学ぶ内容（学部での学びの深化）

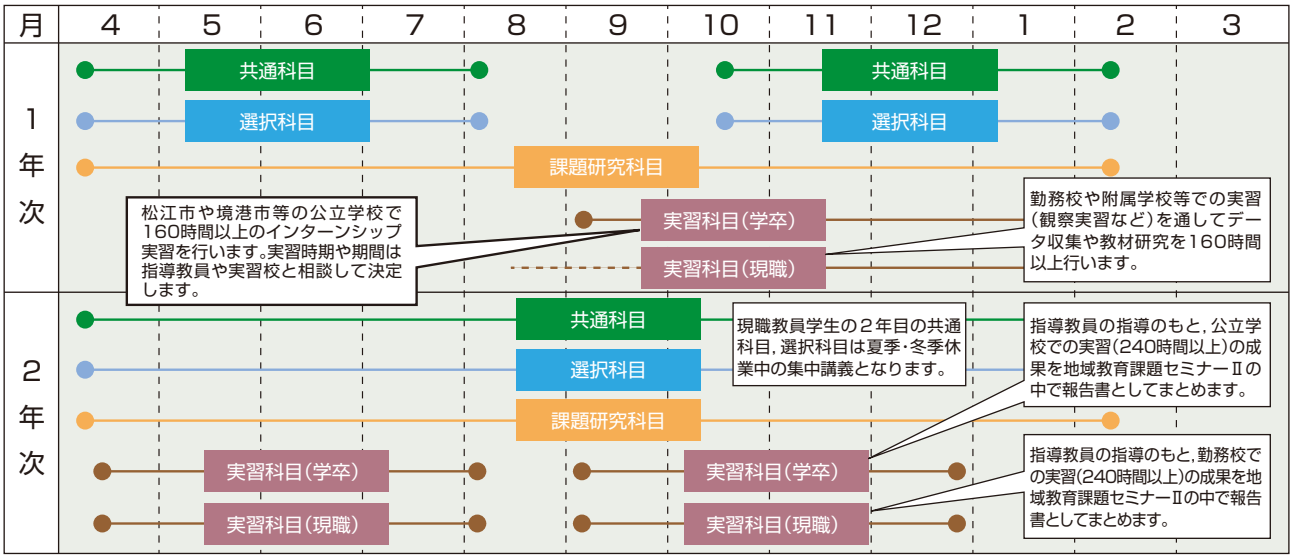
■三つの領域ごとに共通・選択科目を設定し，現代的教育課題に対応できる教師の育成をめざしています。
たとえば，『カリキュラム開発の実践的研究』の授業では，新学習指導要領で重要とされる「社会に開かれた教育課程」について，教師はもとより家庭や地域の人々が，児童生徒の「学習の在り方」を展望していく取組を考察しながら，学校と家庭や地域が相互に連携・協働していくための企画力を身につけていきます。
また『資質・能力の育成をめざした○○科教育方法の探究』の授業では，各教科等に応じた個別的指導のもと，教科教育に関する知識・技能を活用した効果的な指導の開発と実践を行っています。

## 多彩な授業のラインナップ

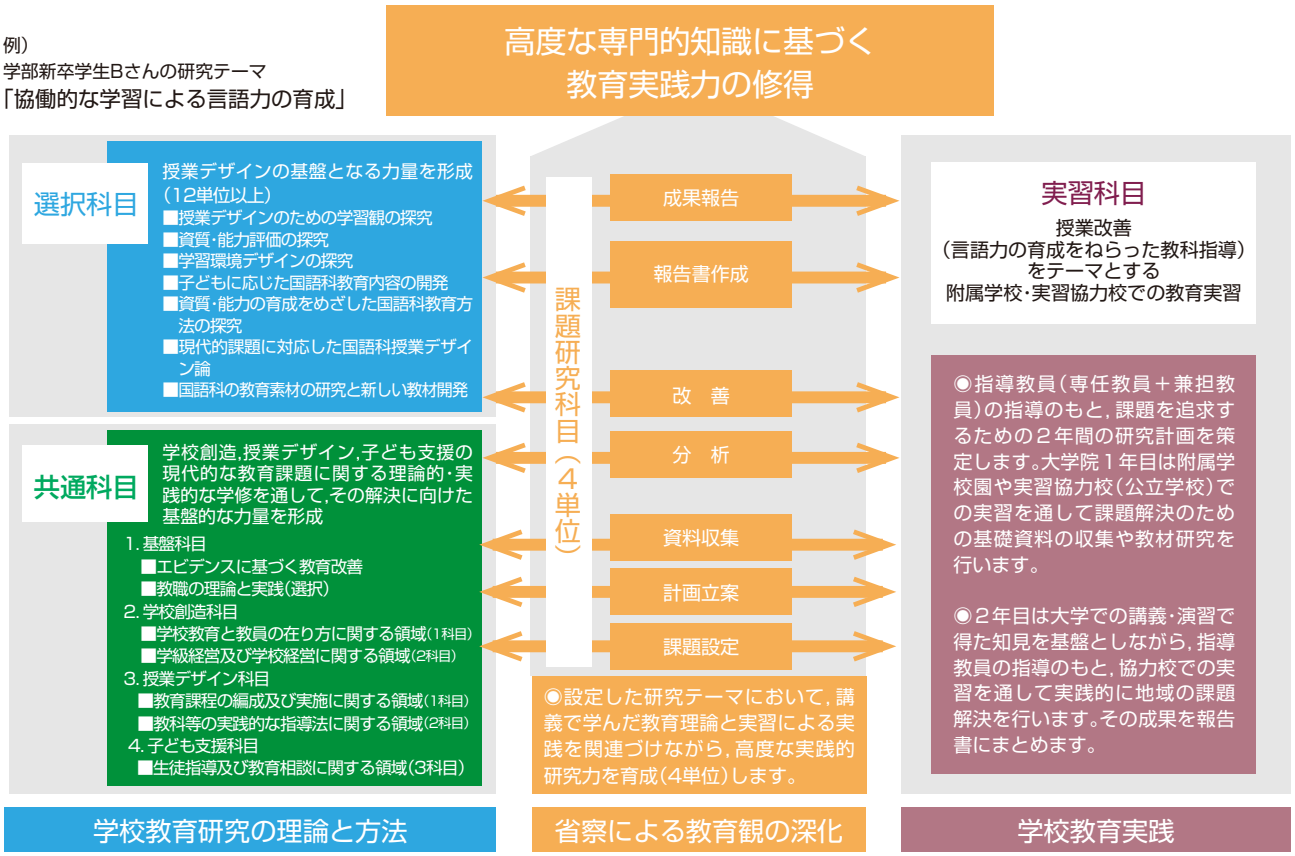
| | 授業デザイン領域 | 学校創造領域 | 子ども支援領域 |
|---|---|---|---|
| 共通科目 | ●カリキュラム開発の実践的研究<br>●教科指導力向上のための授業研究<br>●学びのユニバーサルデザイン実践演習 | ●社会変化と学校役割<br>●多様化時代の学級経営<br>●学校経営の理論と実践 | ●共に生きる場としての学校教育研究<br>●子ども理解・支援の理論と方法<br>●学校におけるガイダンス・カウンセリングの実践的研究 |
| | ●授業デザインのための学習観の探究<br>●資質・能力評価の探究<br>●学習環境デザインの探究<br>●子どもに応じた○○科教育内容の開発（各教科）<br>●資質・能力の育成をめざした○○科教育方法の探究（各教科）<br>●現代的課題に対応した○○科授業デザイン論（各教科）<br>●○○科の教育素材の研究と新しい教材開発（各教科） | ●学校ビジョンの形成と具現化<br>●教職員の職能開発の理論と実践<br>●多様化時代のスクールリーダーシップ<br>●学校の危機管理の理論と実践<br>●地域と協働した学校経営<br>●学校の組織マネジメント発展演習 | ●特別支援教育コーディネーター研究<br>●発達障害児診断・アセスメント研究<br>●特別な支援を要する子ども理解と教育支援A（知的障害）<br>●特別な支援を要する子ども理解と教育支援B（肢体不自由）<br>●特別な支援を要する子ども理解と教育支援C（病弱）<br>●多職種連携による子ども支援と教師の役割 |
| | 授業デザイン科目 | 学校創造科目 | 子ども支援科目 |

基盤科目：●エビデンスに基づく教育改善，教職の理論と実際
課題研究科目：●地域教育課題セミナーⅠ・Ⅱ（授業デザイン・学校創造・子ども支援）
実習科目：●地域教育課題探究フィールドリサーチⅠ・Ⅱ（授業デザイン・学校創造・子ども支援）（初等・中等）
●地域教育課題探究プロジェクトⅠ・Ⅱ（授業デザイン・学校創造・子ども支援）（初等・中等）

教育実践開発専攻（教職大学院）の２年間




「理論と実践の往還」を目指した学修イメージ




島根大学教育学部・教職大学院一貫プログラムについて

このプログラムは，**教職大学院修了までに必要な46単位のうち，8単位を教育学部4年生のうちに履修できる**プログラムです。

島根大学教育学部に在学する学生のうち，学部を卒業後に引き続き教職大学院への進学を希望する者で，**3年次前期までに以下の基準に該当**していれば，本プログラムに申請することが可能です。

①教育学部の卒業要件単位のうち96単位以上を修得していること

②教育体験活動のうち「学校教育実践研究」，「学校教育実習Ⅲ」，「学校教育実習Ⅳ」，「学校教育実習Ⅴ」の単位を修得見込みであること又は履修資格を有していること

③GPAが2.80以上であること

# 島根大学教職大学院で，教育の「今」と「未来」を学び合う

## 教職大学院で学ぶ内容（学部での学びの深化）

■三つの領域ごとに共通・選択科目を設定し，現代的教育課題に対応した「社会に開かれた教育課程」について，教師はもとより学校と相互に連携・協働していくための企画力を身につけていきます。

■「これからの学校」や「これからの学び」を意識することで，従来のカリキュラムには不足しがちだった内容に焦点をあて，多様な活動を通して学部教育（学部専攻）で身につけた教科専門の力を，引き続き伸ばしていけるよう設計されています。

■従来とは異なる視点からの事例研究や模擬授業，ケースメソッドなどの手法をとおして，また在学する2年間貸与されるタブレットや様々なICT機器を活用して,山陰地域の教育課題に迫っていきます。

## 時間割からみる，大学院生の 1年間

| （前期） | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1・2 | 実習日 | | 共通科目 | | 共通科目 |
| 3・4 | | 共通科目 | 共通科目 | 共通科目 | |
| 5・6 | | 共通科目 | | 共通科目 | 共通科目 |
| 7・8 | | | | 子ども支援科目 | 授業デザイン科目 |
| 9・10 | | | | 子ども支援科目 | |

| 集中・不定期 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 共通科目 | 授業デザイン科目 | 授業デザイン科目 | 課題研究科目 | 実習科目 |
| 2年 | 課題研究科目 | 実習科目 | | | |

| （後期） | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1・2 | 実習日 | 実習予備日 | 共通科目 | | 共通科目 |
| 3・4 | | | 共通科目 | 学校創造科目 | 学校創造科目 |
| 5・6 | | | | 授業デザイン科目 | 学校創造科目 |
| 7・8 | | | | 学校創造科目 | 授業デザイン科目 |
| 9・10 | | | | | |

| 集中・不定期 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 共通科目 | 授業デザイン科目 | 授業デザイン科目 | 学校創造科目 | 子ども支援科目 |
| | 子ども支援科目 | 課題研究科目 | 実習科目 | | |
| 2年 | 学校創造科目 | 子ども支援科目 | 子ども支援科目 | 課題研究科目 | 実習科目 |

※太枠は必修科目

### 院生室での暮らしと現場感覚の醸成（現職教員学生と共に学ぶ効果）

学校をよく知る現職教員学生と，これから学校に出ていく学部新卒学生が共に過ごすことで学びを深めあう，大きな効果が生まれています。

現場の状況に近い議論ができ，学部も，教科も，経験も，地域も異なる多様な院生達がそれぞれの専門性を持つ「チームとしての教職大学院」で活動することで，お互いの学びがより深まります。

### 長期間の実習によって培われる実践力（学部での教育実習との違い）

大学院生の研究テーマにマッチする実習協力校（公立学校）を決定し，めまぐるしく変化する学校現場で，2年間の実践研究（実習）を経験します。

より「リアル」に，職員室の「一員」として，実習協力校でインターンシップのように体験しつつ過ごします。

実践研究（実習）はアクション・リサーチであり，現場ではどのように課題解決しているかを体験したり，授業が「できる」段階から，子ども達を動かす授業が「創れる」段階への成長をめざしたりします。

学級経営，生徒指導の実際や，危機管理や保護者との連携，さらに教育相談など，短期間の教育実習では触れることが難しかった，学校の現実体験に迫り，自己の成長を図ります。

島根･鳥取両県の教育センター等との協働で，「生」の教師と語り合う豊かな時間・空間や，実際に現場の教員たちが受講している研修等への聴講ができる制度などもあり，計画的に参加できます。

## 大学院生（修了生含む）の声

島根県教員採用試験で中学校に合格しました。学部4年次の受験では不合格となり，それを機に自らの学び足りなさを痛感して大学院への進学を決めました。学部4年間では教科の専門を学んできましたが，学校教育全般に関する学びを十分にできなかったという思いがありました。

講師として学校現場にでれば，日々子どもたちと共に貴重な経験を積めるであろうという思いもありましたが，大学院で島根県が抱える現代的な教育課題に対する授業内容や方法，学校経営，教育相談，生徒指導などについて様々な文献をもとに熟考し，教育を広い視野で捉える時間をつくりたいと考えました。

講義は現職教員の大学院生の方々と共に，基本的にディスカッション形式で行います。初めは話し合いに上手く参加できず，もどかしい思いをしました。しかし，学校教育に関わる様々なテーマについて自分なりに考えを語ることや，他の学生の多様な経験知に基づいた意見を聞くことは，教師を志す上で非常に貴重な経験であるし，同時に教員採用試験対策につながっていたように思います。

実習は，松江市内の高等学校で様々な教科の授業観察や授業実践，学級経営への関わり等の貴重な体験をさせていただいています。このように，教職大学院では理論と実践の往還を通して，充実した学びが保障されています。学校現場にでる前に，まだ学び足りていないという思いのある方は，ぜひ進学を検討してみて欲しいです。

現職教員の立場から入学した教職大学院での2年間を振り返ると，大きく二つの良さがありました。

一つ目は，今までの実践を俯瞰的に見つめ直すことができたことです。学校現場は多忙です。私自身，目の前の子どもたちのために常に走り続けていました。大学院では，一旦立ち止まって自分の今までの実践を振り返ることができます。落ち着いて振り返る中で，何が課題なのか，何が必要なのかといったことを，整理することができました。

二つ目は，自分が求める学びが得られることです。教職大学院には，様々な分野の専門の先生がおられ，ニーズに合った学びが得られます。つまり，オーダーメイド型の授業を受けることができるのです。自分が深めたいと思うことを，とことん突き詰めることができました。

教職大学院で学ぶにあたり，高度な知識や高い授業力をもっていないといけないわけではありません。「楽しく分かる授業がしたい。日々の授業の質を高めたい。そのために学びたいことがある。」といった気持ちがあれば，十分に満足できる環境だと思います。2年間で多くの学びを得ることができたとともに，様々な先生方と繋がることができました。教職大学院で学んだことが，今の仕事の支えとなっています。

多忙な教員生活の中で，勉強しながら採用試験合格を目指すことに自信がなく不安を抱いていた私は，講師として働くか迷いながらも，現場よりも勉強時間が確保でき，なおかつ教職に対して学びを深めることのできる教職大学院へ進学することを選択しました。

大学院では，日々の授業が全て教員採用試験の対策に直結していると言っても過言ではありません。最新の教育現場の理論等を学びつつ，協力校で実践を行うことが出来ます。教職大学院の一番の強みは，現職教員院生の先生方と一緒に勉強できることだと思います。理論的な知識だけではなく，先生方から実際の現場の状況を聞き，イメージしながら学べることは，「活きる学び」に繋がっていると実感しています。

実際に，私が採用試験の面接で聞かれた内容は教職大学院の授業で学んだことや考えたことばかりでした。また，教員採用試験の対策に関しては，現職の先生方に模擬授業を手伝っていただいたり，教育委員会や管理職で働いておられた先生方に面接練習をしていただいたり，手厚くサポートしていただきました。そのおかげで，本年度，教員採用試験において合格することができました。

教職大学院には，学生を応援してくれる環境が整っていると思います。教職大学院に進学することは一見すると遠回りに思えるかもしれません。しかし，大学院に進学して良かったと自信を持って言えます。それはこの半年間で得てきた学びが自分のものになり，早く現場で活用したいという思いが膨らんでいるからです。悩んだ末の大学院進学でしたが，勇気をもって進学を決めて良かったと思っています。

鳥取県から現職派遣院生として大学院にお世話になっています。教員生活も20年近くになりました。この20年で学校を取り巻く環境は大きく変わるとともに学校に求められるものも格段に増えてきました。そして授業も「主体的・対話的で深い学び」という視点のもと大きく変わろうとしています。しかし多忙な教員生活の中で，次々と学校に求められてくる内容に応じて勉強していくのは難しいことでした。そこで今後求められる授業とはどういうものか研究しようと思い，教職大学院へ進学しました。

大学院では授業改善に関することだけでなく，生徒指導，教育相談，特別支援教育，マネジメントに関することも学ぶことができ，幅広い視野で学校というものを考える機会を得ました。授業では理論を学ぶのはもちろんのこと，同じ院生と活発に協議や議論をすることもあります。他校種，他教科の現職教員の方々とストレートマスターの院生と議論することは，中学校だけの世界で教員として働いてきた私にとって新鮮で刺激があり，勉強になります。今後はこの学びを実践へ活かしていきたいと考えています。

## 島根大学教職大学院は,山陰両県の教師教育を担うための教職大学院として設置されています

島根大学教職大学院は，島根・鳥取両県の教師のキャリアアップに貢献するための大学院として文部科学省に設置認可されています。
山陰両県の教師の職能発達に資することが目的の一つであるため，島根県・鳥取県から毎年数名ずつの現職の先生方が派遣されています。

## ■教職大学院Q&A

### 教職大学院はこれまでの大学院と何が違うのですか? 現 ス

地域の学校教育を牽引する専門家（スクールリーダー）を養成する大学院で,授与される学位は「教職修士（専門職）」です。山陰地域の教育課題を深く追究し,広い視野から組織的に解決できる力を養成します。

### 学校での教科に関する授業がありますか? 現 ス

教職大学院では,教科指導力の向上のため,教科の内容を深く学び,教材づくりや授業のデザインを考える授業があります。また,研究テーマによっては各教科の教科教育の大学教員が指導教員の一人になりますので,ゼミ形式で教科の専門性を伸ばすことも可能です。

### 学費はおおよそ年間いくらぐらい必要になりますか? 現 ス

入学料は282,000円,授業料は535,800円（年額）〔いずれも令和8年度〕です。入学料・授業料の免除制度や奨学金制度もあります。詳しくは,本学学生支援センター2F学生支援課奨学支援グループまでお問い合わせください。

### 教職大学院の奨学金が返還免除になりますか? ス

令和6年度より,教員になった方を対象とした奨学金の返還免除制度が導入されました。貸与される額や返還免除の対象・要件などの詳細につきましては,本学学生支援センター2F学生支援課奨学支援グループまでお問い合わせください。

### 実習は,どのような学校で実施するのでしょうか? 現 ス

学部新卒学生の実習は,原則として松江市（島根）及び境港市（鳥取）の公立小中学校で行います。希望する校種によっては,高校や特別支援学校等での活動も可能です。現職教員の学生の実習は,勤務校での実習が中心です。

### 実習校ではどんなことをするのですか? ス

研究テーマに関するデータ収集（観察や調査）と授業実践が中心です。その他,担当学級の学級経営の補助や,学校行事の運営補助,中学校では部活動指導の補助など,授業以外にも学校の様々な活動を経験します。

### 就学途中で教員採用試験に合格した場合,採用はどうなりますか? ス

入学前や1年生のときに合格した場合,たとえば,島根県や鳥取県等では,大学院修了まで合格を維持したまま,採用を待って頂ける制度があります。

### 教員採用試験の勉強をする時間はありますか? ス

P6の時間割をご参照下さい。空いている時間に教員採用試験の対策をして,1年目に合格する大学院生もいます。2年目は,学校での実習と課題研究以外は教員採用試験の対策に取り組んでいます。

### アルバイトができる時間的な余裕はありますか? ス

大学での授業や実習以外に,アルバイトや自主的な活動に取り組んでいる大学院生もいます。大学院での学修と,そうした活動の両立は十分可能です。

### 教育学部以外の出身なので,不安があるのですが? ス

大学での授業は少人数なので,大学院生のみなさんそれぞれに配慮した授業を行っています。その他,大学院生同士で,それぞれの専門性や得意分野を生かして学びあい,支えあっています。実際,教育学部以外から進学してきた院生も多く在籍しています。

### 現職教員でも進学できますか? 現

島根県や鳥取県の現職教員は,大学院派遣研修制度を利用して進学することができます。勤務校の学校長並びに教育委員会から大学院派遣研修としての推薦を受けた現職教員対象の「現職派遣教員入試」という入試区分があります。

### 現職教員はどのような学生生活を送るのですか? 現

1年目は,大学での講義が中心です。週に1回程度,勤務校を中心とした実習先での実習を行います。2年目は,原則として勤務校にいながら研究テーマに関する実習を行います。

現 は主として現職教員, ス は主としてストレートマスター（学部を卒業してすぐ入学する学生等）向けの質問です。

## ■令和9年度入試（詳細は島根大学入試情報でご確認ください。）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 日　程 | Ⅰ期 | 出願期間 | 令和8年10月5日（月）～令和8年10月9日（金） |
| | | 試験実施日 | 令和8年10月24日（土） |
| | | 合格発表 | 令和8年10月30日（金） |
| | Ⅱ期 | 出願期間 | 令和9年1月18日（月）～令和9年1月22日（金） |
| | | 試験実施日 | 令和9年2月5日（金） |
| | | 合格発表 | 令和9年2月12日（金） |
| | Ⅲ期 | 出願期間 | 令和9年2月15日（月）～令和9年2月19日（金） |
| | | 試験実施日 | 令和9年3月10日（水） |
| | | 合格発表 | 令和9年3月19日（金） |
| 募集人員 | | | 20名 |
| 入学検定料 | | | 30,000円 |

島根大学入試情報　FACEBOOK

大学院の活動　Instagram

## 島根大学大学院 教育学研究科 教育実践開発専攻（教職大学院）

| | |
|---|---|
| 修了要件 | 修業年限（2年間を標準とする※1），修了単位（46単位） |
| 担当教員 | 専任15名,特別専任8名,兼担49名 |
| 学　位 | 教職修士（専門職）<br>実習等を含めた2年間の本課程（専門職学位課程）の修了要件を満たすことによって取得できます。従来の修士課程とは異なり修士論文は課しません。 |
| 免　許 | 小学校教諭専修免許状，中学校教諭専修免許状，高等学校教諭専修免許状，幼稚園教諭専修免許状，特別支援学校教諭専修免許状<br>小・中・高・幼の専修免許は「教職に関する科目」を24単位，特支の免許は「特別支援教育に関する科目」を24単位取得することによって取得できます。ただし，当該免許状の一種免許状を有している必要があります。 |

※1 幼稚園教諭免許状または中学校教諭免許状（いずれも一種であること）を有する者が小学校教諭一種免許状を取得できる「長期在学（3年）プログラム」を開設しています。

お問い合わせ
人とともに 地域とともに 島根大学 SHIMANE UNIVERSITY
島根大学学務課教育学部担当 Tel 0852-32-6035
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
E-mail sad-nyushi@office.shimane-u.ac.jp